夕刊
磐城時報
廿三日發行

福島縣平市紺屋町十四 編輯兼發行 印刷人 岡田弘成
福島縣平市紺屋町十四 印刷所 磐城時報社
福島縣平市紺屋町十四 發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢
廣告料一行十四字詰五十錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

ゴールにあと一日!
文字通りの死闘展開
郡部の形勢は全く混沌

戦ひは愈々あと一日を余すのみとなつた、市部二名、郡部十名計十二名の候補者が興亜縣政を背負つて立つ榮ある『縣會議員』の肩書めざして言論に文書に例外なしに苦闘をつゞけて來たその戦果は明後二十五日有權者の厳正なる審判によつて決せられる、郡部が政友三、民政三の現有勢力に落着くか、政友の候補擁立統制効を奏して四名全獲果して成るか、形勢は全く混沌として流石選擧好きの石城ツ子も『今度の選擧ばかりはどうなるか分らない』と首をひねるばかりである

即ち政友小野氏が地元小名濱學町一致の支持と全郡下に亘る聲望を恃み、同じく遠藤氏は炭礦地帯に牢固として抜くべからざる勢力を有し、民政派の元老草野氏また郡中央山間部に絶對地盤を擁し、三名先づ優勢の如く見られるが、返り新参の民政萩原氏と政友木村、民政坂本、蛭田の三新人鋒鋩鋭く切り込んで勢力伸々に侮どり難く、前回惜敗の政友赤津氏は郡南政友一致の聲援を受けつゝも些か立遅れ氣味で樂觀し得ぬ狀態である民政非公認の大井川氏は居町湯本町では青年層に多くの支持を受けて居・同氏の湯本町での得票はすこぶる興味がある、この間にあつて多年全郡下に亘つてコツコツと地盤を築いて來た立憲養正會齋藤氏は前回同様ダークホースとして全戦線を馳驅し前回敗れてゐるだけに同情も加はり更に地方唯一の新興勢力として相當の戦果をあげるものと見られる

以上の十候補は多少優劣の差こそあれ一、二を除いては殆んど當落の豫想を下されないと云ふ混戦である

平は勢力伯仲
凄愴・關內、野崎の一騎討

郡部が定員六名に十名の候補といふ混戦に對し平市に二名の候補が一つの金的をあげやうといふのだから戦ひは凄絶味を帯びてゐる、政友關內氏に對する民政野崎氏、いづれも平市の勢力を二分して起つてゐるだけに是が非でも勝たねばならぬ一戦である、極く最近までの情勢では關內氏やゝ有利を傳へられてゐたが、流石に千軍萬馬の選擧場裡を往來して戦さ上手な野崎氏の巧みな言論戦術にぢりぢりと壓迫され期日の切迫につれて寧ろ關內氏苦心の色濃厚となつて來た、然しいづれ劣らぬ政民の大立物同志、勢力五分々々といふのが本當であらう

兩派事務長は語る

野崎派山野邊氏

戦ひは出來るだけ闘つた、この上はどうなるか判らないが負けても勝つても差は少數だと思ふ、結局少數差で我々が勝つたものと確信する

關內派多田井氏

我等の候補者は常に肅正選擧を要望して起つて來た、肅選の趣旨が充分有權者の間に徹底してゐる今回の選擧にそれを唯一の頼みとして起つた我が候補者には必らず多數有權者の共鳴があつたものと信じてゐる

助川・堀切氏けふ來援
公會堂で熱辯

二十一日夜公會堂の平市民政野崎候補の推薦演説會にはジャーナリズムの花形鶴見祐輔代議士が來援し選擧なればこそと大いにファンを喜ばせたが、今二十三日夜公會堂及び第四小學校(第三校は都合で中止)で開かれる政友關內候補の演説會には元大藏次官堀切善兵衛、前農林參與官助川啓四郎の兩代議士が來援し各々得意の財政論、農村問題を説くことになつてゐる

當落判明は十時前
投票所の準備萬端成る

明後二十五日の投票日に平市では全戸に國旗を掲揚し午前七時の投票開始時刻にはサイレン、梵鐘を一齊に吹鳴し『棄權するな』の合圖とする、第一投票所の市會議室は二十四日午前中に一切の準備を終り午後一時縣社子鍬倉神社山部神官の手で厳かな清祓式を行ふことになつてゐる

○

投票は午前七時から午後六時まで行はれ午後七時から市會議室で開票を開始するが當落の判明は九時半乃至十時ごろになるものと見られてゐる

疊業組合總會

疊業組合總會は來月四日午前十時から開き價格統制問題その他を協議

海軍志願兵募集

昭和十五年度海軍志願兵徴募はこの程告示されたので縣から平市へも募集盡力方遂しがあつた從來十七才以上二十一才未滿となつてゐた年令が來年から十六才以上と改められ檢査は一月上旬から二月上旬に施行三月中に採否が發表される

磐女運動會

磐城高女の第二十六回陸上運動會は來月八日擧行また秋の校內學年對抗陸上競技を三十日午後一時から行ふ

寄付

市內才槌小路青年分團で九圓四十九錢を銃後奉公會に寄付

慰問號禮狀集

拜啓初秋の折柄銃後の皆様方貴社員の方々には定めし御壯健の事と拜察申上候、次に小生も御蔭様にて出征以來既に三ケ年に相成候も至極達者にて國家に御奉公出來得る事はこれ偏に銃後諸彦の御後援の賜と深謝致居候、就ては此度は磐城時報御恵送相成り厚く御禮申上候、何分にも遠き戦地の事なれば何より嬉しく拜見致し候、兎角我々は第一に新聞、雜誌が何よりの御慰問と存ぜられ候、何か讀物など到着致し候節は戦友一同が顔を輝かし乍ら詰よる様な內地人にはとても想像も出來ぬシーンに御座候、我々は目下○○の地に警備勤務致し居候、何かと戦況等御報道致し度く存じ候も軍則にて禁じられ居り候へば何卒御許し被下度、氣候不順期に入る事なれば充分に御壯健に御暮し遊ばさるゝ様異郷の空より御祈申居候先は取り敢へず右御禮旁々申述度

新川町出身　佐々木安一君

○

丈余の高粱も刈取られ北支にも早や秋が訪れて參りました過日は平市の情報御しらせ下され誠に有難う御座いました我々も銃後の支援と相俟つて長期建設に敗殘兵の掃蕩に元氣につとめて居ります、先は取り敢へず御禮まで

中町出身　小野利重君

平市人事錄

○出生　鷹匠町一〇福場良平さん二男勝美君

◎婚姻　東京市澁谷區八幡通り三丁目一四須崎篤さん(三七)と田町七三殿村春子さん(三〇)

天氣豫報

今晩は北の風曇り小雨天氣よくなる
明日は北東の風晴

最上の墨色
文徳墨汁
卓上用、一合瓶、二合瓶
五合、一升、一斗詰各種
特約店
(文) 魁文堂

洋酒と喫茶
麗人のサービス
氣分本位の店
タイラ・ギンザ通り
グリル バッカス
電七二〇番

裏面に縣會議員得票記入表あり

立候補者一覽表(届出順)

(平市)定員一名

氏名	年齢	黨派	職業	事務長	事務所
野崎滿藏	(五九)	民政現	自動車業	山野邊義政	平市田町一〇
關內正一	(四三)	政友現	油販賣商	多田井笑次郎	平市三丁目二六

(石城郡)定員六名

氏名	年齢	黨派	職業	事務長	事務所
蓮沼龍輔	(四八)	政友現	新聞業	渡邊清	平市田町一九
齋藤晃	(三八)	養正新	釀造業	高木秀雄	湯本町天王崎四四
木村守江	(四〇)	政友新	醫師	門馬倉次郎	四倉町本町一一八
萩原義雄	(五二)	民政元	歯科醫	吉田寅之輔	平市鍛冶町一六
草野三郎	(七〇)	民政現	農業	鈴木盛之助	平市才槌小路一
大井川正巳	(三七)	民政新	雜貨商	平子玉男	湯本町三函八〇
小野晋平	(五五)	政友現	酒造業	水野政次郎	小名濱町中明神町二
蛭田虎次郎	(五九)	民政新	製材業	川崎善彌	湯本町天王崎二
坂本龜太郎	(五八)	民政新	釀造業	成瀬巳三	植田町瀬川
赤津庄兵衛	(四五)	政友新	呉服商	山崎登	植田町本町

今晩七時から
場所 平市公會堂

縣會議員候補者 關內正一 政見發表演說會

辯士
平市會議員 大嶺庫
代議士 元大藏次官 堀切善兵衛
代議士 前農林參與官 助川啓四郎
候補者 關內正一

第三小學校の演說會は都合に依り中止致します
責任者 平市大工町廿五番地 多田井笑次郎

縣會議員得票記入表

（平市部獨立第一回）　昭和十四年九月二十五日執行

市町村名	有權者數／候補者名	棄權	無效	關内正一	野崎滿藏	小野晋平	蓮沼龍輔	木村守江	赤津庄兵衛	草野三郎	萩原義雄	坂本龜太郎	蛭田虎次郎	齋藤晃	大井川正己
平市	五、〇四七														
飯野村	六四八														
高久村	五一九														
豊間村	八一八														
江名町	一、二七八														
小名濱町	二、四八二														
玉川村	四九二														
鹿島村	三八三														
泉村	八〇七														
湯本町	三、一四四														
内郷村	五、二九三														
磐崎村	一、二一六														
上遠野村	九四二														
入遠野村	八三四														
川部村	八〇二														
田人村	一、〇四八														
勿來町	一、七三〇														
錦村	一、一〇一														
植田町	一、二〇四														
渡邊村	四三六														
山田村	六一二														
夏井村	五四四														
神谷村	七〇三														
草野村	九〇三														
大浦村	八三八														
四倉町	一、四四四														
大野村	七七九														
上下小川村	八八七														
川前村	五三九														
三坂、澤渡村	八〇六														
永戸、箕輪村	七九六														
赤井村	一、二八五														
好間村	二、四四三														
郡部合計	三七、七五六														